

はじめに

聖書全篇の一貫した基本的思想は「契約と贖い」による創造主の救済計画である。
出エジプト記は新約聖書と深い関連を持ち、出エジプトの思想が、新約聖書において普遍的で、さらに深い霊的な領域への広がりを見せている。

1. 出エジプト記の概要

(1) 出エジプト記の目的

創造主がアブラハムと結ばれた契約を、その子孫に対してどのように実現されたかを書き記している。主〈ヤハウェ〉であられる聖書の神は、アブラハムとの契約に基づいてイスラエルの民をエジプトから救い出し、ご自身の民とし、この民と契約を結ばれた。

(2) 出エジプト記の主題

出エジプト記の主題は、旧約・新約聖書全篇を貫いている根本的な思想である。ちなみに、旧新約聖書の共通の「約」の字は「契約」を意味し、両者はこの「契約」によって一つに結ばれている。

「見よ、その時代が来る——【主】のことは——。そのとき、わたしはイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ」(エレミヤ31:31)。

(3) 出エジプト記の構成

ここでは主な項目と梗概を記す。

① 前半(エジプトからの解放と救い)

『あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを見た』(19:4)。

★序文 —————1 章

★救いの準備 ——2~7 章

指導者モーセの生い立ちと召命、荒野への追放、アロンの任命

★10の災害と出エジプト——7~15 章

9つの災害と過ぎ越しの災害、紅海渡渉、勝利の賛美

★シナイへの旅——15~18 章

マラとメリバの危機、マナの恵、アマレクとの戦いイテロの助言

②後半(契約と幕屋、宗教制度の制定)

★モーセ契約——19~24 章

シナイ山における十戒の賦与

★幕屋建設——25~31 章

目的と構造、細部の設計指示、祭司職関係、指導者と安息日

★主の民の背教——32~33 章

金の子牛崇拜とモーセの執成し

レビ族による懲罰再度の執成し

★契約の更新——34 章

神の顕現とモーセの執成し、律法と契約の更新

★幕屋の建設——35～40 章

幕屋細部の制作要約と実行、幕屋の完成と主の祝福

主の栄光幕屋に満ちる

2. 主の民イスラエルの、エジプトからシナイまで 19 : 1～4

(1) エジプトの地を出て、シナイの荒野に入った時期

「エジプトの地を出たイスラエルの子らは、第三の新月の日にシナイの荒野に入った」(出 19 : 1)。

(2) モーセ山に登る

「彼らはレフィディムを旅立って、シナイの荒野に入り、その荒野で宿営した。イスラエルはそこで、山を前に宿営した。モーセが神のみもとに上って行くと、【主】が山から彼を呼んで言われた。「あなたは、こうヤコブの家に言い、イスラエルの子らに告げよ。

(3) レフィディムでのアマレクとの戦いの回想

シナイの荒野に入ったイスラエルの民は、アマレクに戦いを挑まれた。戦いのさなか、モーセの祈りの手を、アロンとフルが支えた。

私たちも主イエスのゲッセマネの祈りを思い浮かべて、祈るものになりたい。

(4) イスラエルの民の過去の歴史

「モーセが神のみもとに上って行くと、【主】が山から彼を呼んで言われた。「あなたは、こうヤコブの家に言い、イスラエルの子らに告げよ。『あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを見た』」(出 19 : 3～4)。

「あなたは、こうヤコブの家に言い、イスラエルの子らに告げよ。」ヤコブとイスラエルの二つの名が並記されているのは、過去の卑しめられた状態から、ペヌエルで名をイスラエルと改めた、神の選びの尊さを再確認させるためであった。

そして、奇跡的な救いの御業によりエジプトを脱出した後、「あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れてきたことを見た」ではないかと、念を押しておられる。この表現は、モーセが創造主の御業を回想してしばしば用いた方法であった。

むすび

創造主の世界救済計画は、その器としてのイスラエル選びと歴史によって実現する。そして、出エジプト記はエジプトからシナイの荒野まで鷲の翼に乗せて、新約に続く「贖いの旅」であった。

新約では聖霊が変革の原動力であり、旧約ではモーセ律法が変革の土台であり、目標として与えられている。このシリーズを通してイエス・キリストを救い主として信じるキリスト者は、新約の契約の民として召されたものであることを確認しておきたい。それゆえ、今日の聖書テキストを味わって終わる。